

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑨

「宇和島藩領色分絵図(以辰極月廿四日)の裏書が
下、色分絵図」は、宇和島藩領があった宇和郡全体
を描いた南北492セ、東より作製され、宇和島藩に
西402セの巨大な絵図で提出されたことが明らかと
ある。その大きさから取り扱いが困難だったためか、

作者の八十島は、初代藩
絵図は破損により2枚に分
離しており、欠損部分もあ
る。絵図には「色分之御絵
図式枚之内 奉仕立上ル
八十嶋治右衛門/延宝四丙

主伊達秀宗により取り立て
られ、郡奉行兼務となった
後、1670(寛文10)年
から72年にかけて検地の頭
取をつとめている。そして、

宇和島藩領色分絵図



「宇和島藩領色分絵図」。
県歴史文化博物館蔵

の作製である。

八十島が作製した「色分
絵図」は、領内の耕地が村
ごとに色分けされているの
が特徴となっている。同藩
領の平地や盆地、海岸部に
耕地が広く分布しており、
寛文検地により把握した耕
地をそのまま絵図に描き出
したものと考えられる。

村々の集落の位置は、家
の屋根の記号で図示され
ている。一つ一つの村の中
で村名、朱書で村高が記載
される。また村域が広い山
間部の村や海岸部に点在す
る漁村については、本村の
みならず枝郷や離れた耕地
の名前までもが記されてい
る。

あげると江戸時代の遍路道
が推定復元できる。山間部
では、折れ曲がりながら急
な坂道を一気に登り、そこ
からは、尾根道を進むこと
で最短距離を進むように遍
路道が描かれているが、愛
南町の柏坂を除くと、既に
失われた道も多い。

耕地を村ごとに色分け

寺社堂庵を家の形の記号
で示し、主要な寺社には名
前がある。この一枚の絵図
には、藩領全体の姿をはじ
め、村々の生産力や地理的
な環境、河川の流路や主要
街道などが描き込まれてお
り、八十島の優れた地図の
作製能力がうかがえる。

領内の検地からわずか3年
命じられる。宇和島藩領の
心部に短冊形の村形が据
えられ、その内側には墨書

後、八十島に新たな任務が
姿を詳細に描いた領内絵図

豊富な情報をもつ「色分
絵図」からはいろいろなこ
とを読み取れるが、一例を

(学芸課長・井上淳)
△随時掲載します▽